

外科起廃図譜

——世界で最初の全身麻酔の図譜は日本で著された！——

土手健太郎¹⁾，長檜 巧²⁾

¹⁾愛媛大学医学部附属病院麻酔・集中治療部，²⁾あい薬局

1. はじめに

華岡流の全身麻酔の実際の場面を表した図譜を外科起廃図譜の中に見る事が出来た。今回、我々は、外科起廃図譜から当時の全身麻酔の様子を検討し、全身麻酔が発明された19世紀前半の麻酔科学史の背景を調べ、“外科起廃図譜が現存する世界で最初の全身麻酔の図譜である”を検討したので報告する。

2. 外科起廃図譜とは？

外科起廃図譜は、鎌田玄台が門人たちに口述したものを松岡肇が編集したもので、天保11年(1840)に刊行された。玄台の手術例はすこぶる多く、門人がその都度そのすべてを記録しておくことは困難だったため、たまたま異常の症例に施術したときのみ、これを玄台から口授し、筆記・図写し塾中で保管した。この65症例を編集したのが外科起廃図譜である。その大半は、麻沸湯投与後に手術した症例で、門弟が介助している様も描かれている。この図譜は、淡墨一色刷の刊本であるが、前型(切り子細工)形式を採用して、患部を一枚めくれば療後の状態が分かるようになっている。

3. 麻沸湯による全身麻酔の実際の状況

外科起廃図譜では、全身麻酔下手術である事が確認できる図譜が4葉あった。この図譜から、全身麻酔を遂行するのに、目隠しが2場面、布団で身体を覆っているのが1場面、門弟が介助して患者の手足を両側から抑制しているのが2場面、布で両手を抑制しているのが1場面、麻酔科医らしき者が脈をとっているのが2場面見られた。これまでの麻沸湯論の記載では“麻沸湯を投与した後は、患者を個室に寝かせ、静かな環境を整える。目隠しをして、手足をしっかりと抑制することが大切である。”としているが、図譜でより具体的に明らかになった。

4. 外科起廃図譜の麻酔科歴史的価値について

欧米での、全身麻酔の図としては、1846年にモートンによって行われた全身麻酔の図や写真が最も古く、1847年のスノウの著書の中にも図がある。これに対し、外科起廃図譜は1840年に刊行されており、現存する世界で最初の全身麻酔の図譜であると考えられ、世界的にも重要な資料である。

5. 結論

麻沸湯論などに記載されていた華岡流全身麻酔の状況が、外科起廃図譜により図譜として始めて明らかになった。目隠しや抑制を行っているのは麻沸湯論や瘍科秘録の記載どおりであったが、外科医のほかには患者の全身を観察している医師がおり、外科起廃図譜を著した鎌田玄台は麻酔科医の重要性を認識していたと考えられる。外科起廃図譜は1840年に刊行されており、現存する世界で最初の全身麻酔の図譜であると考えられ、世界的にも重要な資料である。